

新たな時代における診療放射線技師の役割

— 新元号「令和」を迎えて —

熊代 正行

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長



5月1日、新天皇が即位され、元号が平成から令和へと移り変わり、わが国は歴史上の大きな転換点を迎えた。ここに、新天皇の即位を謹んでお慶び申し上げるとともに、末永く安寧と繁栄が続くことを祈念したい。

昨年、改正された「働き方改革関連法」および「改正入国管理法」は、国内の労働環境の改善に向けて、時間外労働の上限規制導入などの働き方改革および国内の労働人口減少の解消に向けて、本年4月より同時に施行された。10月から実施される消費税10%への引き上げと併せて、わが国は政治・経済両面において大きな節目となる令和元年を迎えた。

われわれ診療放射線業務の根幹を成す放射線医療においても、本年4月1日より医療法施行規則が一部改正された。第1条の11第2項に、これまでの院内感染対策、医薬品の安全管理、医療機器の安全管理に加え、診療用放射線の安全管理が新たに設置され、医療安全の体制を確保することが義務付けられた。この中で、診療用放射線に係る安全管理のための責任者として、病院などの管理者は「医療放射線安全管理責任者」として医師および歯科医師に加え、条件付きではあるが診療放射線技師を責任者としても差し支えないことが明記された。経過措置として、診療用放射線の安全管理体制に係る規定の施行期日は2020年4月1日としているが、診療用放射線の安全利用のための指針、研修、被ばく線量の管理・記録、および情報等収集・報告等に対応する体制・組織づくりは急務である。本会は、医療放射線安全管理責任者として活躍できる環境が整ったことを受け、医療放射線安全管理責任者養成講習会を準備することを2019年度の事業計画に盛り込んだ。

また昨年6月の厚労省課長通知「医療機器に係る安全管理のための体制確保に係る運用上の留意点について」において、安全使用のための研修、保守点検の計画策定・実施が特に必要とされる放射線関連機器として、CTとMRI装置が追加された。本年度は、これらの研修に係る指針やリニアックの点検と研修に加え、診療用粒子線照射装置および診療用放射線照射装置についても点検と研修の指針作りに着手する予定である。

一方では、エンターテインメントの世界において最近話題となった漫画「ラジエーションハウス」のドラマ化が話題を呼んでいる。月9（月曜午後9時）のドラマとしてさまざまな評価はあるが、現代医療を支える「画像診断」の世界で「診療放射線技師」と「放射線科医」が活躍する漫画を原作としており、平成から令和に続く斬新な医療ドラマと評されている。これまでは専ら医師や看護師が主役となっていたのであるが、診療放射線技師を主役に抜き、放射線科医と共にストーリーを展開していく内容は画期的といえよう。主人公は卓越したスキルで「読影の補助」を行っているのである。われわれは日常診療において、危機的な画像所見や見逃してはならない画像所見に遭遇することがしばしばある。これらは、適切に医師に伝えられてこそその効力を発し、医師による適切な読影行為によって初めて人命が救われるのである。しかし、われわれは表舞台に出ることがなくても、自らの職業に誇りと生きがいを感じながら日常診療を行っている。このドラマではそれが見事に演じられており、以前に鑑賞した米国映画をほうふつとさせる。苦悩や挫折と向き合いながら役名もなく、決して超えてはならないラインの後ろでしのぎを削る、ブロードウェイのオーディションの最終選考に残ったダンサーたちを演じた「コーラスライン」と重なる。表舞台で目立つ存在でなくとも、裏方でひたすら夢に向かってまい進するひたむきな人生は、観る者に感動を与える。

現在、次の時代を見据えた診療放射線技師の養成教育カリキュラム改定の中で、医療安全の観点からも、さまざまな診療画像情報を医師および他のスタッフと共有するために必要なコミュニケーションスキルや、患者に検査説明のできるスキルを養成するための科目の創設が求められている。そして医療放射線安全に係る大改革が、平成から令和へと移行行く中で、われわれ診療放射線技師にその役割が求められていることを肝に銘じて、いかに時代が移ろうとも色あせることのない価値を見だし、継承していく義務があることを忘れてはならない。